

## 〇〇〇〇学級 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時  
場所 〇〇〇〇学級 教室  
児童数 〇名  
授業者

1 主題名 みんな なかよし 内容項目 [B 友情、信頼]

2 ねらい よりよい友達関係を気付くために、相手の気持ちを考えることを通して、認め合い、助け合って、友達と仲よく過ごそうとする心情を育てる。

教材名 「およげないりすさん」(出典:「わたしたちの道徳」 文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第1学年及び第2学年の内容項目「友達となかよくし、助け合うこと。」に関するものである。これは、友達関係における基本とすべきことであり、友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを育むことをねらいとしている。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下ようになる。

小学校1学年及び 第2学年B	小学校3学年及び 第4学年B	小学校5学年及び 第6学年B	中学校 B
友達と仲よくし、助け合うこと。	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	友達の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についても理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

友達と仲よくするとは、自分の気持ちを伝え合い、相手に対する思いやりをもって友達関係を築くことである。友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに理解し、協力し合う活動を通して構築されるものである。友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くためには、互いを認め合い、理解し合い、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。また、異性についても互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが必要である。

低学年児童の段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。自分本位な言動によって気付かないうちに友達を傷付けてしまうこともある。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。また、中学年以降の段階においては、活動の範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係が広がったり深めていこうとしたりする。自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。

そこで、友達と仲よくし、助け合うことの大切さを実感できるようにするために、発達段階に応じて、相手の気持ちに寄り添い、相手の気持ちを理解することを考えさせ、互いを認め合い、協力し、助け合っていこうとする心情を育てていきたい。

## (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、知的障害学級(1組)〇名、自閉・情緒障害学級(2組)〇名の〇名からなる異年齢集団である。それぞれの児童の障害の種類や程度も様々であり、自分の考えや気持ちを言葉で表現できる児童もいるが、絵カードや身振り手振りなどで表現する児童もいる。明るく素直で、生き生きと活動する児童が多い。また、生活や遊びを通して友達との関わりをもつことができるようになってきている。上級生が下級生を気遣ったり、下級生が上級生を手本にしたりして、共に成長してきている。しかし、友達のために何かしてあげたいという気持ちが、相手の負担や迷惑になってしまうことがある。また、友達の気持ちを考えずに、自己中心的な行動からトラブルになることもある。

本学級では、各教科等において認め合い、助け合って友達と仲よくすることのよさを実感させるために以下のような指導を行ってきた。

体育・音楽・図工・生活単元・総合的な学習の時間などの学習では、2クラス合同で進めているが、日常生活の指導、国語、算数などは、分かれて学習している。

これまで、生活単元学習の中で道徳科の教材を取り扱い、各教科を合わせた指導の形態で学習を行ってきた。児童の実態の中から題材を選び、今年度は、「礼儀」「節度、節制」「親切、思いやり」の内容項目からそれぞれ授業を行ってきた。また、自立活動の授業では、「他己紹介をしよう」のグループ活動で、「相手の言葉を聞き取り、友達のことを紹介する」という具体的な指導内容を設定して活動したり、「なかよく あそぼう」の風船バレーで、友達と協力して風船を回し、一緒に活動したりした。

## ②本教材に関わる児童の実態(略)

## (3) 教材の特質や活用方法について

かめ、あひる、はくちょうが池の中のしまへ行こうとした際に、「一緒に連れて行ってほしい」と言うりに、泳げないから駄目だと断ってしまう。りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんなでしまに向かうという内容である。

「仲間に入れない」という場面は、現在、友達とのトラブルでは見られない。しかし、自分にとって都合のよいことを優先させることで友達が嫌がることをしてしまうことがある。友達の気持ちを考え、仲よくすることが大切であることに気付かせていくために、かめ、あひる、はくちょうの自分

本位な言動によって、1人ぼっちになってしまう「りす」を中心に考える。りすと他の動物達両方に自我関与させ、みんなで仲よくすることのよさについて考えを深めさせる。

そのために本時は、「補充」を意図して授業を行い、以下の流れに沿って話し合う。

かめ、あひる、はくちょうの自分本位な行動について考えさせるために、「りすさんは、およげないからだめ。」と断られたりすに共感させる。

りすを1人ぼっちにしてしまったことを後悔する気持ちを考えさせるために、「しまで遊んでいてもなぜ楽しくないのか。」と問題提起し、遊んでいても楽しくないかめ、あひる、はくちょうに自我関与させる。

みんなで一緒に行くことのよさや助け合うことの大切さについて考えさせるために、一緒にしまへ向かう役割演技を行い、実感をもって考えさせる。

#### 4 指導の工夫

##### 《具体的な手立て》

##### ① 教材を提示する工夫

ホワイトボードにペープサートで教材を提示することで、場面や登場人物の状況について理解しやすいように工夫する。

##### ② 発問の工夫

発問の区切りごとに読み聞かせをすることで、何について考えればよいのか、理解しやすくする。また、T2の教員も補助発問や切り返しの発問を行い、児童の発言を引き出せるようにする。

##### ③ 授業のユニバーサルデザイン化

「見通しボード」で、授業の流れをつかんで取り組めるようにする。


##### ④ 表現活動の工夫

役割演技を行うことで、新たな気づきを得たり考えを共有したりしながら、道徳的価値を実感できる学習にする。

##### ⑤ 書く活動の工夫

振り返りの活動では、発達段階に応じて数種類のワークシートを用意し、個に応じた支援を行うことで、意欲的に取り組めるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動(○主な発問)	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 「みんななかよし」について考える。</p> <p>○みんななかよしてどうということだろう。</p>	<p>・遊ぶ。</p> <p>・仲よくする。</p> <p>・けんかしない。</p> <p>・やさしくする。</p>	<p>・授業全体を通して追求していく学習問題を掲げて問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。</p> <p>・日常生活と関連付けながら、自分の事として考えられるようにする。</p>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p><b>問題意識をもたせる導入</b></p> <p>T : みんななかよしてどうということ？</p> <p>C : お友達。</p> <p>C : おにごっこした。</p> <p>T : みんなとしたね。B ちゃんは？</p> <p>T : ビー玉で遊んでる。A くと。</p> <p>T : お友達ってことばがでてきたね。D くんは？</p> <p>C : やさしくする。</p> <p>T : 一緒に遊ぶとどう？</p> <p>C : 楽しい。</p> <p>T : 今日はあるお話を使って、みんななかよしを勉強するよ。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 10px;">みんな なかよし</div> </div>		
展開	<p>2 教材「およげないりすさん」を読んで話し合う。</p>		<p>・本時は、教材を通じて「みんななかよし」でいるために大切なことは何かを考えさせる。</p>
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>・かめ、あひる、はくちょうは池の中のしまへ行って遊ぶ相談をしていた。そこにりすがやってきて、「ぼくもいっしょにつれていって。」と頼むが、「りすさんは、およげないからだめ。」と断り、しまの方へ泳いでいってしまう。</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>教材を提示する工夫</b></p>  </div>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ホワイトボードにペープサートで教材を提示することで、場面や登場人物の状況について理解しやすいようにした。</p> </div>

(1) 「ぼくも一緒に連れて行ってね。」と言った後、「だめ。」と言われてりすさんはどんな気持ちだったか。

- ・悲しい。
- ・ぼくも一緒に行きたかったな。
- ・みんなだけ行くなんでずるい。
- ・泳げないからだめなんて、ひどい。
- ・ひとりぼっちになっちゃった。

- ・友達ということを押さえ、一緒に遊べることを楽しみにしているりすの気持ちを知る。
- ・かめ、あひる、はくちょうの自分本位な行動について考えさせるために、断られたりすに共感させる。
- ・どんな理由でも、だめと拒否された時、言われたら悲しいと思う相手の気持ちを考えさせる。
- ・児童の実態に応じて、補助発問し、話し合いを深める。
- ☆りすの気持ちを絵カードで選択することができる。(A)…A 児・B 児
- ☆りすの気持ちを発表することができる。(B)…C 児・F 児
- ☆りすやかめ、あひる、はくちょうの気持ちになって発表することができる。(C)…D 児・E 児

人間理解を深める話し合い

T：りすさんは、動物たち3人になんて言われたの？  
 C：「だめ。」  
 T：そうだね。りすさんは泳げないからだめっていわれたんだよね。みんなはりすさんの気持ちになって考えよう。このときのりすさんの気持ちは？  
 C：もったりすさんと遊びたかった。もういいよって。  
 T：もういいよって言ってほしかったのかな？  
 C：うん。  
 C：こうえんいいな。  
 T：なるほど。  
 C：しまを独り占めにして・・・。  
 T：悲しい？不安って？  
 C：うん。  
 T：Bちゃんは？  
 C：バツ。  
 T：うれしい？かなしい？  
 C：やな感じ。  
 T：みんなたくさん考えてくれたね。  
 さあ、このおはなしの続きをみてみよう。



・しまに遊びに来た3人は遊んでいても少しも楽しくなかった。

(2) かめさん、あひるさん、はくちょうさんは、しまであそんでいても少しも楽しくないのはどうしてか。

- ・りすさんひとりぼっちになっているから。
- ・みんな一緒にくればよかったと思っているから。
- ・りすさんがいやな気持ちになっていることに気付いたから。
- ・しまに来なければよかったな。

•つぎの日、りすに「きのうはごめんね。きょうは一緒にしまへ行こう。」と誘い、かめの背中に乗せてみんなでしまに向かった。

(3) 「りすさんも、一緒にしまへ行こうよ。」とみんなでしまへ向かった時、

•りすさんはどう思ったか。

•他の三人はどう思ったか。

3 学習課題について振り返る。

○話し合いをして考えたことを書こう。

(りす)

•せなかに乗せてくれてありがとう。  
•一緒に遊べてうれしい。

(かめ、あひる、はくちょう)

•ごめんね。寂しい思いをさせて。  
•みんなで行くと楽しいよ。  
•りすさんがにこにこでうれしい。  
•みんなでなかよく遊ぼう。

•みんなで遊んだほうが楽しい。  
•かめさんに乗せてもらってうれしかった。  
•みんなニコニコになってよかった。  
•友達の気持ちを考えてなかよく遊びたい。

•道徳的価値について理解を深めるために、りすの気持ちと、他の三人の気持ち両方について考えさせ、「みんななかよし」とは、協力したり助け合ったりする大切さにも気付かせていく。

•役割演技を通して、友達と仲よくするために声をかけることのよさを、実感をもって考えさせる。

☆役割演技でいろいろな立場になって、気付いたことや考えたことを伝えようとしている。

(発表、つぶやき、表情)

•実態に合わせたワークシートを使用して、考えを表現しやすくする。

☆自分の考えをイラストに表情を描いて表現している。(A)…A 児・B 児・C 児

☆「みんななかよし」の大切さについて考えている。(B)…F 児

☆友達とよりよい人間関係を築くために大切なことについて、自分の生き方と関連付けながら考えている。(C)…D 児・E 児

(発表、つぶやき、表情、ワークシート)

児童の実態に合わせたワークシート



終末

4 教師の話を聞く。

•今後の道徳的実践に向けての意欲を高める。

6 他の教育活動との関連

特別活動「2学期おつかれさま会をしよう」

友達と話し合いながら計画を立てたり、準備を進めたりする中で、みんなで楽しめる会を行う。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・みんな仲よくすることについて考えを表現している。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・相手の気持ちを考えて、仲よく、助け合うよさについて、自分との関わりで考えている。

8 板書計画

